



ほっとするね  
緑の府中

第 65 号

# 指導室だより

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24  
電話 042-335-4063

## 〓特別支援学級連合学芸会〓

### 練習の成果を十分に発揮し、 素晴らしい演技を発表

第43回府中市立小・中学校特別支援学級連合学芸会が、11月28日、府中の森芸術劇場で行われた。会場は、地域住民、保護者や家族の方々が満員となった。

今年度は、「♪ちからを あわせて たのしいがくげいかいを♪」をスローガンに掲げ、始めに「ひとりじゃないさ」を全員で合唱し、心一つにして連合学芸会の幕を開けた。

#### ◆ 午前の部

いよいよ演技の開始。各学校が練習の過程で工夫したところや努力したことを紹介します。

○小柳小学校劇「白雪姫とゆかいな仲間たち」。子どもたちの立つ位置が目立つように大道具を少なくしたり、入れ替えもしないようにしたりして工夫をした。台詞を大きな声ではっきり言えるよう努力してきた。

○府中第五小学校劇「大きな石」。音楽に合わせて子どもたちが動いたり、台詞を言ったりするところを工夫した。配役も子ども



たちの意見を取り上げて決めた。台詞の言い方、動き方を努力させたので一生懸命頑張った。

○府中第四小学校劇「さるかにばなし」。台本を作る時、どの子にどんな役が適しているか考え、言葉の発達等を考慮して台詞を工夫した。前を見てはつきりと台詞を言うことを努力した。

○府中第九小学校劇「しりとりの大すきな王さまと女王さま」。一人一人が目立つよう出番が均等になるように工夫した。台詞の間をとることで舞台での立つ位置が覚えられるよう努力した。

○南町小学校劇「わっしょいわっしょいぶんぶんぶん」。原作にこだわらず全員がやりたい役になれるよう脚本を工夫した。自分で振り付けを工夫したり互いに台詞を教え合ったり成長の姿が見られたのは努力の賜である。

○府中第二小学校劇「ピーターパン」。子どもたちが舞台の中央に集まりがちなので、離れて大きく使うことに努力した。当日は広い舞台に負けずに自信をもって堂々と演技していたので感動した。

#### ◆ 午後の部

昼食・休憩をはさんで午後からは中学生の部が始まった。

○府中第一中学校劇「オズ Over The Rainbow (虹の彼方に)」。話を楽しむために映画を見せイメージ作りをした。楽しんで演技できるように小道具など工夫した。生徒と対話を重ね、要望を聞きながら台本・演技を作った。

○府中第二中学校合唱「輝くために」合奏「風になりたい」。ペットボトルでマラカスを作り、中に何を入れるか自分で

考え、好きな音になるように工夫した。合奏では、全員が希望の楽器を担当して、難しいリズムもあきらめずに挑戦した。

○府中第四中学校合奏「ハンガリー舞曲第五番」、群読「生きる」、ハンドベル「瑠璃色の地球」。テンポの違いによる合わせやハンドベルの音を覚えるのに苦労した。群読は声の大きさを覚え、生徒それぞれの「生きる」の一言も付け加えさせるなど工夫した。

各学校で一生懸命に練習してきた成果が十分に発揮された素晴らしい連合学芸会であった。



《練習の成果を十分に発揮し、素晴らしい演技を発表》



〈教育随想〉

最近気になること

府中市教育委員会教育部

副参事兼指導室長 酒井 泰

人との関わり

毎日、満員電車で揺られ、「通勤」しているとき、ふと気付いたことがある。

最近、混雑した電車から降りるとき、無言でただ身体をぶつけて通る人が多くなっているというのだ。邪魔だとばかりに押され、腹立たしく思った経験があるのは、私だけではないと思う。

電車から降りるとき、出口付近にいる人に横にずれていただくためには、「すみません」の一言、これが大切なマナーであると思う。

そう言えば、ホームを歩いていても人とぶつかる率が高くなっ

他者との境界

ている。自分が年齢を重ね、運動神経が鈍ってきているのも原因の一つであると思うが、どうみても相手構わず、自分の方が優先権でもあるような歩き方をする人が多くなってきている。

日本人の感情や「やる気」が変化し、自分の立場ばかり見て他人の立場を見ることができなくなり、以前と比べて、人々は他人を見下し、他者軽視に陥りやすいのではないかという話に接したことがある。

まさに、このことがびたりとあてはまると思われるできごとではないか。

電車の中といえば、車中で化粧をする女性のことが話題となつて久しい。実際に私も目の当たりにして、こちらのほうが思わず目をそらしてしまったこともある。なぜ、人前で化粧をして平気なのかという私の問いに、ある人は次のように話した。「化粧をしている人は、自分の世界しか見えない。自分にとって見ず知らずの人である他の乗客は、全く気にならない存在である。よって、他人も自分と同じであり、化粧をしている自分の存在を全く認識しないと思っている。」というのである。

して、人前での化粧をたしなめる内容の一言を書いた手紙をそつとひざの上に置いているという女性がいるとの話を伺ったことがある。何の前触れもなく、そつと置かれた手紙に戸惑う女性に、人前での化粧という行為そのものだけでなく、相手を傷つけずに注意する優しさが感じられ、きつと素直に受け入れられるのだからと感じ入った次第である。

大人は鏡

「子どもは親の背中を見て育つ」とか「子は親の鏡」などと言われているが、大人が本気になって子どもの手本を示さなければならぬのではないだろうか。昨年のこの欄で、私は子どもをよりよく育てるためには、大人が諦めずに注意し続けることが大切であるという内容であったと記憶している。今年私は、大人が人生の先輩として、子どもに正しいことは正しいと自信をもって手本を示すことが重要であると述べたい。子どもの感覚は実に鋭く、ものの本質を見抜く力がある。年齢によって感じても表現する力が追いつかず、一見分かっていないように見えることもあるが、侮ってはいけない。子どもは最大の評価者である。その子どもたちに、言葉ではなく、態度でそして行動で範を示せる大人になりたいものである。



府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

自ら学び進んで考える子の育成

～考える力を育てる算数の授業づくり～

府中市立府中第三小学校

研究主任 黒川 和彦

【何を目指したのか】

サプテーマにもあるように、私たちが中心に考えたことは、「算数の授業づくり」である。問題解決型の算数の授業では、どのような指導を行えばよいのか。思考力に焦点を当てるとすると、どのような授業改善が必要なのか。そんな問題意識をもちながら、算数の授業づくりを進めてきたのが、二年間の研究であった。

【考えるためのアイテム】

何もないところで、子どもたちは考えることはできない。考えるための何らかのアイテムをもっていきからこそ、子どもたちは問題解決に向かって動き出すことができるのである。毎時間の授業では、それらのアイテムを蓄積していくことが大切になってくる。

私たちは、授業で行われる算数的活動を次のように整理して、

考えるためのアイテムの蓄積をしていくことにした。

① 図を使って考える

低学年の時から、問題を絵に描いたりアレイ図に表したりする活動は重視していかなければいけない。そして、より簡潔な表し方をする方向で指導をしていく。

② 式を使って考える

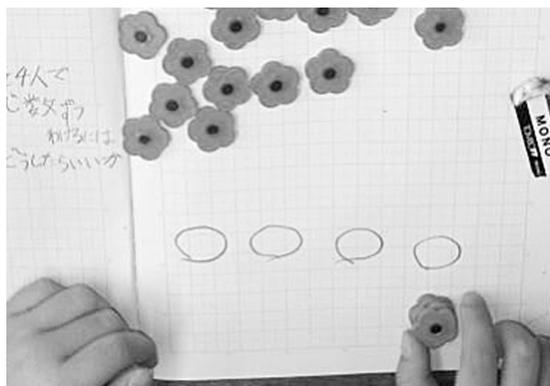
問題場面を式に表したり、式から問題場面をイメージしたりすることが、自在にできるようしていくことを目指して指導していくことが大切である。

③ 言葉を使って考える

言葉を使って説明することで論理性が生まれてくる。その論理性をより高めるためには、わかりやすい説明を手助けする「接続語」の指導が有効である。

④ 既習事項を使って考える

新しい問題を解決するときには、既習の方法・考え方を使えば、ほとんどの場合解決できる。だから、授業ではいつも以前考



⑤ 友達との

関わりの中で考える

考える力は、友達との関わりの中でこそ育つものである。そのために、算数の話し合いでは「比較検討を中心に行う」「同じ考えや似た考えを発言すること奨励する」「前の人につなげて意見を言うように促す」ことが有効になる。

【授業づくりのポイント】

私たちは、問題解決の手法を取り入れ、一時間の授業を「問題をつかむ」⇨「考えをもつ」⇨「高め合う」⇨「振り返る」という四つの段階で組み立てた。

そして、それぞれの段階での指導のポイントを次のようにまとめた。

① 「問題をつかむ」段階

- ・ 引きつける問題提示をする。
- ・ 子どもの問いを生み出す。
- ・ 解決の見通しがもてるようになる。

② 「考えをもつ」段階

- ・ 考えるためのアイテムをもたせておく。
- ・ ヒントを用意する。
- ・ 小グループで教え合う場を設定する。

③ 「高め合う」段階

- ・ 比較検討を中心にする。
- ・ 発言をつなげる。
- ・ 「高め合う」段階を開る。
- ・ 友達の考えた図や式を説明してもらおう。
- ・ 数学的な考え方に迫る。

④ 「振り返る」段階

- ・ 「学習の振り返り」を文章で書く。
- ・ 練習問題を取り入れる。

※ 板書の工夫

- ・ 授業の流れが見える。
- ・ 考えるためのヒントが見える。
- ・ 学習のポイントが見える。
- ・ 考え方の比較ができる。

※ 小黒板の活用

- ・ 子どもの考えを引き出す。
- ・ 情報提供に使う。

【もう一步 先へ行くために】

このように、考える力を育てるための算数の授業づくりは、どのように行えばよいのか、そのアウトラインがはっきりしてきた。普段の授業でも、考えることを楽しむ子どもたちの様子に手応えを感じる時がある。しかし、もう一步踏み込んだ授業づくりを、私たちは目指したいと考える。そのためには、次の二つの課題を解決していく必要があるだろう。

○ 数学的な考え方に結びつくような集団検討はどのように行ったらよいのか。

○ 考える力に結びつくノート指導はどのように行ったらよいのか。



## 府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

## 「楽しく運動する子どもたち」

～体育科の授業を通して～

府中市立若松小学校  
研究主任 大杉 健

## 1 研究テーマについて

子どもが外で遊ぶ機会が少なくなった、子どもの体力が低下してきているなどの調査報告を様々なメディアを通して目にすることが多くなってきている。

本校の子どもたちの実態でも  
・休み時間、外で遊ばない子どもがいる。  
・汗をかきほど遊んでいない。  
・運動を進んでやりたがらない子どもがいる。

・授業中、姿勢の悪い児童が多い。(普段の生活と運動能力の関係)  
・耐震工事などで、校庭使用が限られ、その中でもできる効果的な運動を考えた。

・さまざまな児童の様子や教師側の課題・疑問が数多く出された。

このような実態を踏まえ、本校の子どもたちが生涯にわたって楽しく運動をし、健康で幸福な生活をおくることができるようにするために、子どもたち

が小学校生活の中でどのような力をつけ、また私たちは、そのために何をどのように取り組んでいったらよいかを探るために本テーマを設定し、研究を始めた。

## 2 研究の手だて

研究の視点として、二本の柱を立てた。一つは、子どもたちの「できた」という思いを大切に「一人一人がめあてをもち」という柱。一人一人が自分にあつためあてを設定したり、スモールステップのめあてを設定したりして、運動することを目指した。もう一つは、「友達とかかわり合いながら」という柱。友達同士、互いに教え合うなどの学びの共有の場を工夫した。また、「友達にほめられてうれしかった」というような、励まし合いのかかわりも大切に

した。  
授業の充実に向けては、次の5つの手だてを考えた。「運動の特性を知る」実技研究会、ブ



ロック会、領域分科会などを通して研究を深めた。「子どもを知る」意識調査や体力テストを実施した。「運動量の確保」授業の内容構成を考えた。

「共通した指導」体育科年間指導計画の作成と関連をもたせながら、共通した指導について話し合った。「教材・教具の工夫と開発」や本校の環境や子どもの実態に合わせて、新しい教材教具の開発を行った。

## 3 授業研究

各学年とも、体づくり運動、ゲーム・ボール運動の2領域について研究授業を行った。

〈体づくり運動〉の低学年では、動物になったり忍者になったり模倣の運動遊びを中心に構成した。中学年では、器具用具を使った運動を取り入れた。Gボー

ルは、本年新しく取り入れた運動である。高学年では、体力テストの結果を活かし、一人一人がめあてを設定し、重点的に取り組む運動を選択する授業を行った。

〈ゲーム・ボール運動〉の低学年では「ころがしまとあてゲーム」「シュートゲーム」、中学年では、ゴールなどを工夫した「セストボール」、高学年では「ソフトバレーボール」や新しく考えた「バウンドベースボール」に取り組んだ。いずれも、運動の目的に合うボールの選択や子どもの実態に合わせたルールづくりを工夫したり、練習方法や作戦をチームで考えたりするかかわりを大切にした授業づくりを行った。

## 4 研究の成果と課題

2年間の研究の結果、以下のような成果と課題を得た。

## 〈成果〉

・スモールステップのめあて、自分に合わせためあてを設定し、子どもはより意欲的に運動することができた。また、教師側も個々の児童のめあてを把握し、一人一人に的確な指導助言を行うことができた。

・グループやペアなど、友達とかかわり合いながら運動する活動を取り入れ、アドバイスをし合ったり、互いに励ましの言葉

をかけ合ったりして、楽しく運動することができた。

・体力面での二極化の実態に対しては、めあての工夫、練習方法やルールの工夫、教材教具などの工夫を通して成果を上げることができた。

・限られたスペースでも楽しく運動できる題材として、バウンドベースボールなどのゲームを開発した。

・体づくり運動のGボールやゲーム・ボール運動のセストボールなど新しい教材にも取り組み、若松小学校の体育科年間指導計画を作成した。

## 〈課題〉

・意識調査から苦手とする児童が多かった器械運動、表現運動などの領域にも踏み込んで、体育の授業をさらに充実させていくことが課題である。



府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

自ら学び考える子どもの育成

― 地域を生かし 体験と表現を大切に ―

府中市立矢崎小学校  
研究主任 渡部 きよ子

〔研究主題設定〕

研究を通して研さんを積んだ。

本校は、多摩川や用水路などの豊かな自然に恵まれ、近隣には郷土の森博物館・卸売センター・ビール工場などの児童の学習に適した施設が多く、また教育活動に協力してくださる地域人材が多いなど、恵まれた環境にある。この地域の豊かな教育資源を活用し、体験的な学習を充実させ、学習活動に生かすとともに、問題解決的な学習活動や国語科で培った言語力を生かした表現力を充実させることを通して、自ら学び考える力を育て、学力の向上につなげたいと本研究主題を設定した。

② 体験活動の充実

地域教材を確かな学力の定着・向上の観点から価値付けし開発整理して、地域教材活用図を作成し、地域教材や地域の人材を系統立てて活用した。教科と地域教材の関連をより明確にして、人とのかわりの中で体験的な活動を充実させた。

③ 問題解決的な学習活動

問題解決的な学習のプロセスを、「つかむ↓調べる↓深める↓広げる」とし、自らの力で見通しをもって問題をよりよく解決できるようにした。

④ 表現力の育成

豊かな表現力を育てるために、相手意識・場意識・目的意識をはっきりさせ、多様な表現方法を使うことで児童が表現しやすくさせた。また、視点をはっきりさせて話したり書いたりさせて、考えを深めるようにした。

① 教育課題と評価の改善

新学習指導要領の趣旨を生かし、指導計画・評価計画の改善を図り指導の充実に心がけた。また、授業改善推進プランの作成・活用を図り、全教員の授業



多摩川クリーン作戦（4年）

言葉を選び語尾に気をつけて話すようにさせた。

〔研究の実践〕

低・中・高・専科の四つの分科会に分かれて研究を進めた。

低学年分科会は国語科で、中・高学年分科会は総合的な学習の時間、専科分科会は担当教科で授業研究を行った。

一年「ことばっておもしろいな」では、生活科で見学した卸売センターでの体験を生かして、「おみせやさんごっこ」での表現を児童自ら考え、工夫した。

二年「せつめい書を作ろう」では、おもちや博士になって一年生や地域の幼稚園児におもちの作り方を分かりやすく、説明した。楽しく書いて伝えることができた。

三年「YAZAKIボーイズ&ガールズPR隊」では、郷土の森博物館や卸売センターのよさを宣伝した。相手意識・目的意識を明確にしたことで、主体的に学習し適切な表現ができた。

四年「多摩川クリーン作戦」では、多摩川の自然環境を学ぶ活動を通して、多摩川のよさを大切にしていくと意欲が高まった。さらに、生活をよりよくしていく活動へと発展した。

五年「ふるさと矢崎の産業を伝えよう」では、社会科で学習した農業や工業をさらに焦点を絞って、地域の産業のすばらしさを知らせようと、自ら課題を決めて調べる活動を行った。

六年「地域を見つめて―府中歴史解説員になろう―」では、府中の武蔵国府や甲州街道・大國魂神社などについて、自らの課題を決めて調べ、効果的に表現できるように工夫し、五年生に伝えた。

図工「我ら多摩川縄文人」では、郷土の森博物館の学芸員の方にもご指導をいただいた。多摩川で児童自ら採取した粘土で土器や土偶などの縄文アートを工夫して作ることができた。

〔研究の成果〕

①新学習指導要領の趣旨を生かし、指導計画・評価計画の改善

を図り授業研究を通して指導の充実につながった。

②地域教材活用図を作成することで、さらに活発に地域教材を活用でき、児童は地域での体験的な学習を意欲的に行うことができた。

③問題解決的な学習のプロセスを明確にしたことで、児童は自ら考えて見通しをもって課題追究できるようにした。

④相手意識・場意識・目的意識をはっきりさせたことで、児童は意欲的に工夫して表現できた。

〔研究の課題〕

①表現活動にとって基礎となる読むことの指導を充実させたい。  
②体験的な学習の場を児童自らも広げていけるようにしたい。



宝性院 是政村の由来調べ（6年）

＝ 適応指導教室 「けやき教室」 ＝

# 「平成20年度の活動を振り返って」

けやき教室 指導員 上野 俊枝

## ○けやき教室の生活

今年度は在籍の生徒が20名を超え、特に三年生が多かった。基礎学力をつけ、少しでも自信をもたせて学校復帰を促すために、学習タイム4時間のうち3時間を教科学習に当てるようにしてきた。

昼休みや放課後の「けやきタイム」は、生徒たちの大好きな自由時間で、卓球（昼休みのみ）やトランプ、ゲーム、パズルなど自分たちの好みの遊びで楽しんでいる。この自由時間がけやき教室では、生徒同士のコミュニケーションを図るとても大切な時間となっている。

## ○けやき教室の学習

学習は、年間活動計画のもと教科学習、教科外活動（「共同学習」と呼んでいる）、スポーツ活動等を年間を通して行ってきた。

### （一）教科学習

教科学習は主に個別の自主学習が基本で、生徒は週の予定表をもとに自主的に計画を立て、学習を行ってきた。主として国語、数学、英語を熱心に学習した。指導員は質問に答えるなど学習の支援を行ってきた。また、希望制ではあるが一斉

- （一）安全な通室。
- （二）個々の生徒の学力を伸ばし、自分に自信をもたせる指導。
- （三）社会性・自主性を伸ばす教室運営。
- （四）生徒の速やかな学校復帰を促すため常に学校と連絡を取る。
- （五）保護者との連携を図る。



理科実験

授業の形態で国語（読み・文法・書写）、社会（地理）、英語、家庭科等を行った。英語では、今年度初めて外国人英語講師による英語の授業を2回行った。〈理科〉昨年同様、理科専門の先生のご指導で、三階の理科実験室で3回の実験を行った。顕微鏡での観察、ガスバーナーを使ってのガラス管細工、草木染めを行った。

キを作った。被服実習では布のボール、コースターを作った。

## （二）教科外学習「共同学習」

教科外の学習を「共同学習」と名付け、けやき教室では重視している。集団で活動することの少なかった生徒たちに、協力・共同の大切さと、活動を成し遂げたときの達成感・満足感を味わわせたいという願いからである。スポーツも含めて、毎日1、2時間設けている。

### ○パソコン学習

一学期には「文書作成」を学んだ。文字入力への学習に加えて、生徒自身が好きな詩を選び、詩の雰囲気合う写真や絵を取り込んで一つの作品に仕上げた。二学期には「カレンダー作り」を行った。インターネットを使いたり自分で絵を描いたりして美しく、見やすいカレンダーを作成した。

### ○菜園

畝作りなど畑作りから始め、トマト・キュウリ・ナスなどの夏野菜を10種類ほど植えた。秋には、白菜・小松菜・ほうれん草などの種を蒔いた。天候にも恵まれ、収穫の楽しみを味わうことが出来た。

### ○創作

水彩画・段ボールを使った額縁作り・七夕飾り作りなどを行っ

た。また、教育センターを訪れるお子さんに喜んでもらえるようにとセンターの入り口の壁の飾り絵を作成した。

## ○道徳

人間として身に付けておくべき事柄を、道徳の資料なども使いながら学ぶように心がけた。感想を読むと、自分の考えを鋭く表現する生徒もいて、感心させられた。

## （三）スポーツ

スポーツは週1回卓球、府中公園でバドミントンなどの軽スポーツを行ってきた。

総合体育館では、市の指導員からバスケットボール・ソフトバレーボールなどを教えていただき、みんな試合に熱中した。

## （四）校外学習

5月は「浅間山」へ遠足に行った。事前に地図の見方や地域の学習をし、府中市の歴史なども学んだ。「ムサシノキスゲ」が満開で美しい自然の中で生徒同士の交流を深めた。12月には「多摩動物公園」へ遠足に行った。動物の動きや習性を知り、中学生らしい学び方が出来た。

一年間たくさん学習や体験活動を行って生徒たちはかなり大きく成長した一年だった。

わが校の特色ある教育 NO.30  
**「自ら意欲を持って  
 行動する生徒会」**  
 ～明るい挨拶・きれいな学校を  
 モットーに～  
 府中市立府中第十中学校  
 教諭 茂木 実

☆ 十中の教育の概要

本校は、中央高速国立府中インター入口に近い府中市の最西に位置している。付近には、この3月に開設する西府駅や上円下方墳で有名な武蔵府中熊野神社古墳もある。

- 本校の「教育目標」は、
- 1、基礎学力をしっかりと身に付ける
  - 2、正しい判断力を養う
  - 3、積極的に体力づくりをする
  - 4、何事にも進んで実践するの4つである。



また、全校生徒が「明るい挨拶・きれいな学校」を念頭において日々生活している。

挨拶は毎日校舎内に「おはようございます、こんにちは」が響き渡るほどで、来校された方々がいつも感心されている。また、清掃活動も徹底しており、教室は勿論、壁、床等は、いつも清潔に保たれている。

☆ 自ら成長する生徒会活動

浅間山、桜島と噴火活動が続いている中、府中市では、耐震工事が進んでいる。本校でも

昨年度には校舎、体育館の耐震工事、今年度は外壁工事が終了した。

外壁塗装工事が終了した秋口に生徒会の本部から、校内の内壁も綺麗にしようという声が上がって、校内を落書き消しだけでなく、今まで以上にきれいにしようという取り組みが始まった。

本校ではボランティア活動が生徒たちの間での伝統となっている。今までも挨拶運動、地域清掃、そして落ち葉掃きボランティアと毎年生徒会は熱心に取り組んできた。この伝統がこころへ来て一つステップが上がったのである。

☆ 壁塗り奮戦

生徒会室に集まる、生徒達の顔はいつも目が輝いている。さあ、次はどんなチャレンジをしようかなと期待している。何か一つのテーマを投げかけると、一人一人が真剣に受け止め、様々な意見を生み出してくる。

こんな中から、今回取り組んでいる校内外壁塗装が持ち上がった。しかし、どうやったらいいか皆目見当がつかない様子である。

そこで前任校で職員が行っていた教室塗りのノウハウを伝授すると、一気に具体化した。

ボランティアを募る前に、まず自分たちが技術を取得しなければと試し塗りを行った。最初のうちは恐る恐る塗装用のローラーを手に壁に無言で向かっていった生徒達は、時間がたつにつれて余裕が生まれ笑い声が出るほどになった。マスキングを取ると予想以上の出来であった。

次にボランティアを募り、いよいよ実行。20名近くのボランティアが集まり、一年生教室の壁から始まった。乾くまで時間が必要と土曜日に作業をする。作業は、ペンキが付いても許せる服装で、それぞれ思い思いの場所を塗り始めた。生徒会役員が細かいところを手直ししながら、髪の毛のペンキをものともせず、笑い声の中、壁と奮戦し塗り終わった。終わった時の生徒の満足そうな顔が今回の企画の素晴らしさを語っていた。

☆ 創立30周年に向けて

内壁塗装の作業は、まだ始まったばかりである。

本校は平成22年度創立30周年を迎える。生徒会本部は、周年の年に向けて、さらに校舎の壁を明るくしていこうと計画をしている。

おそらく、現生徒会執行部だけでは終了しえない計画である。これこそ十中の伝統である「明るい挨拶・きれいな学校」の伝統をつなげることになる。

もし時間が許す方は、是非一度生徒達が塗った内壁を見ていただきたい。教育目標の「何事にも進んで実践する」が少しずつ学校全体に広がっている。



| 3月研修会・委員会等予定 | 日  | 曜 | 研修会・委員会等   | 会場     | 研修内容等             |
|--------------|----|---|------------|--------|-------------------|
|              | 2  | 月 | 生活指導主任会    | 教育センター | 全体会・分科会           |
|              | 2  | 月 | 特別支援学級代表者会 | 教育センター | 代表者会・分科会          |
|              | 3  | 火 | 学校評価委員会    | 教育センター | 今年度のまとめ           |
|              | 4  | 水 | 教育委員会表彰式   | 教育センター | 児童・生徒表彰           |
|              | 5  | 木 | 教務主任会      | 教育センター | 全体会(研究について)小・中分科会 |
|              | 6  | 金 | 進路指導主任会    | 教育センター | 今年度のまとめ           |
|              | 17 | 火 | 地域安全協議会全体会 | 教育センター | 今年度のまとめ           |



「雪は天から送られた手紙である。」という言葉を残した中谷吉郎は、雪博士として知られている。雪水に関する精力的な研究に、中谷博士を駆り立てたのは、雪の結晶の美しさだった。「あり合わせの顕微鏡を廊下の吹きさらしの所へ持ち出して、初めて完全な結晶を覗いて見たときの印象はなかなか忘れがたいものである。」(「雪を作る話」)自然のもつ美しさや、自然の神秘に触れることは、人の心を動かし、時に行動にまで導く強い力をもっている。

中谷博士は、子ども時代の読書と科学との関連についての文章の中で、次のように述べている。「地球の内部が火の球であると言うと、それを問題にするのは、少数の科学者だけである。おそらく殆どすべての子供たちは、そんなことは分かり切っているさと答えるであろう。その答えは二重の意味で考えてみる必要がある。第一は、分かり切っているとはい入んでいる点であり、第二は、もっと大切なことであるが、そ

### 「自然に驚嘆する 鋭い喜び」を 子どもたちに

れにあまり驚かないことである。」(『西遊記』の夢) 子どもたちには、まず小さなことにも疑問を感じる心をもってほしい。その上で、驚きをもって接することのできる心情を育てたい。そのためには、大人が驚きや畏敬の念をもって自然に接することが大切である。

理科教育の充実が求められている今、子どもたちが自然に直接触れる機会がこれまで以上に重要になる。その際に、子どもが「美しい」と感じるができるような働きかけがポイントとなる。夕焼けを子どもと一緒に見たら、「きれいだね。」と声を掛けることが大事なのである。

中谷博士は、上に引用した文章の別の箇所でも「自然に驚嘆する鋭い喜び」という言葉も使っている。雄大な自然の中に身を置いたり、自然のいきまを垣間見たりするとき、私たちが感じる喜び。それは、日常生活の中で感じる喜びとは、若干趣が異なっているように感じる。「自然に驚嘆する鋭い喜び」とは、それを見事に言い表した言葉だと思ふ。(出典：樋口敬二編『中谷吉郎随筆集』岩波文庫)

(指導主事 長井 満敏)

### 学びの窓

#### 「第2期府中市子ども読書活動推進計画」の実現

文化スポーツ部図書課 サービス係長 坪井 茂美

この計画の第1期では、「赤ちゃん絵本文庫」の実施やおはなし会の拡大、新府中市立中央図書館の開館、学校図書館指導補助員の時間拡大等により、推進計画の多くの目標が実施できた。

第1期の期間満了に伴い、皆様からご意見をいただき検討を重ね、平成20年9月に第2期の推進計画を策定した。

第2期では、さらに学校との連携、ボランティアや地域の住民との連携を重点項目とし、加えてYA(ヤングアダルト)世代への働きかけを具体化している。

現在、公立小中学校に対してお薦め本のリスト配付や学級貸出、要望があればおはなし会・ブックトークの出張などを行っている。

子どもたちに読書の楽しみを知ってもらうためには、積極的な働きかけが重要である。そのために、子どもに関わる部署との連携は不可欠であり、家庭、地域のボランティアと協働をすすめる、子どもたちの読書環境の整備、充実を図っていく。

### あとがき

平成20年度の教育活動も最後の月を迎えた。各校とも年度末のまとめと整理。そして、新年度の教育計画と準備。毎日が目が回るほどの忙しさではないかと推察する▼一方で、次から次へと押し寄せる教育改革の波。その対応に追われ、息つく暇もないのが、教育現場の実情である▼そのような中で、授業力アップ研修、各種研修会などを通し、自己研さんに取り組む多くの先生方の姿があった▼また、日常の実践では、児童・生徒の素晴らしい活動に接することもできた。子どもたちの輝きの中に、自己実現の喜びがあり、感動の共有があった▼教育の原点は、教師と子どもとの信頼関係である。子どもへの愛情を捧げ、生涯現役で活躍したのが、旧是分教場で32年間教鞭を執った「谷中慎吾」である▼教え子達は、恩師の顕彰碑を建立し謝恩の意を表した。その碑は、府中市登録文化財の指定を受け、府中第八小学校校地にある▼時代がどのように変化しようと、教師の子どもへの愛情は、「千古不易」(永遠に変わらないこと)の真理である。弥生3月。惜別の季節でもある。(小澤 宏)